

令和5年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立中央小学校

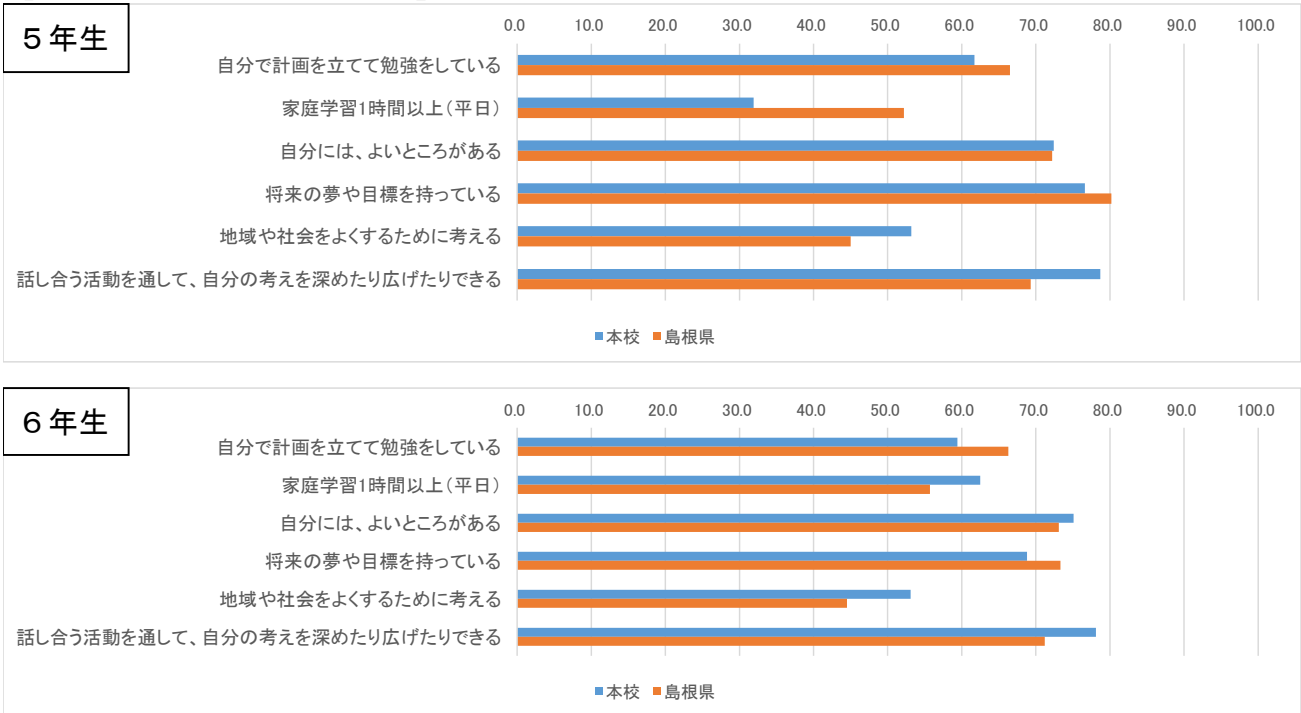
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
国語	●前年度に配当されている漢字の定着が十分でない。 ●連用修飾語の理解が十分でない。 ●説明文において、文章全体の構成を捉えること、情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理することに課題がある。 ●目的に応じて文章を簡潔にまとめて書くことに課題がある。 ●段落の役割についての理解が十分でない。	○インタビューの内容を聞き取る問題は全体的に正答率が高く、意図に応じて話の内容をとらえる力が身に付いてきている。 ●記述式の問題については正答率が悪い。 ●「書くこと」の領域の問題が全体的にできておらず、書く力に課題がある。また、記述の問題に取り組むまでに時間がかかりすぎてしまい、時間内に最後まで問題に取り組むことができなかったと考えられる。
算数	●小数のかけ算・わり算、分数のたし算・ひき算の基礎的な計算の仕方の理解、定着が十分でない。 ●図形の角において、三角形の3つの角の大きさの和を理解し、2つの角の大きさから残りの角の大きさを求めることの理解、定着が十分でない。 ●合同な図形において、既習の四角形について対角線で分割した三角形を合同の観点で捉えなおすことの理解、定着が十分でない。	○復習していた問題、記憶に新しい問題はよくできていた。（文字と式、面積と体積、対称な形、拡大図・縮図など）基本的な理解ができてきている。 ●「分数のかけ算・わり算」が全体的に正答率が低い。復習が十分でないものは忘れてしまうので、繰り返し練習をする必要がある。 ●「比」や「分数のかけ算・わり算」とともに割合に関する理解と定着が十分でない。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
意識	○「地域や社会をよくするために考える」の項目で県平均以上。今後も、地域の一員として、課題に対し自分事として考え続けることのできる学習の充実を図っていく。 ○「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりできる」の項目で県平均以上。今後も、日々の授業において話し合いの目的の明確化、安心して表現できる学級の雰囲気づくり等に努めていく。 ●「家庭学習1時間以上(平日)」の項目で県平均を大きく下回る。一方で6年生は県平均以上であることから、学校全体として家庭学習の充実に向けた情報共有及び指導の改善を図る必要がある。	○「家庭学習1時間以上(平日)」の項目が県平均を上回った。家庭での学習習慣が身につくにつれある。 ○「地域や社会をよくするために考える」の項目で県平均以上。今後も地域の一員として地域に関する課題について考える学習の拡充を図る。 ○「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりできる」の項目で県平均以上。今後も、日々の授業の中で話し合い活動を意図的・計画的に行い、話し合い活動の拡充に努める。 ●「自分で計画を立てて勉強をしている」項目が県平均以下。自分で学習する力を育てていく手立てが必要。併せて、将来を見据えて自分に

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R5学力調査受検者数】

5年生

47

名

6年生

33

名

（欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示）